

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年3月27日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	2月の価格情報			3月		3月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3年平均値との比率	主産地	生育及び価格の4月上旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準	
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	中旬					
		下旬	上旬							
葉茎菜類	キャベツ	96.86	114	96.86	108	113	・7,387t (83%)	愛知(61), 千葉(21)	平均価格 →	愛知産は、天候に恵まれ適度な降雨もあったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、年明け以降の少雨により干ばつ傾向ではあるものの、生育は概ね順調で肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 愛知産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		(118%)	(112%)	(117%)	2,962t (76%)	愛知(60), 大阪(12), 兵庫(9)				
	たまねぎ	83.77	90	83.77	101	109	・5,937t (92%)	北海道(68), 静岡(15)	→	北海道産は、貯蔵物からの出荷で出荷終盤となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。静岡産は、生育は順調であるものの12月の気温が高めで適度な降雨もあり、前進出荷となった影響により、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれるものの、静岡産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		(107%)	(121%)	(130%)	2,335t (93%)	北海道(72), 長崎(14)				
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	252.99	309	252.99	315	309	・1,237t (76%)	千葉(48), 埼玉(24), 茨城(10), 群馬(7)	→	千葉産は、定植期の台風の影響が残り、曲がり等の発生が多く、秋冬作の切上がりが早めと見込まれることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。埼玉産は、天候は良いものの、干ばつの影響により葉の傷み等が散見されることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産及び埼玉産の出荷が平年より少なめ若しくはやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		(122%)	(125%)	(122%)	130t (62%)	徳島(30), 三重(21), 奈良(12), 香川(11), 高知(10)				
はくさい	64.18	95	64.18	91	110	・1,521t (63%)	茨城(55), 兵庫(23)	→	茨城産は、秋冬作の切上がりが早いものの、春作が順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、生育は順調であるものの、定植時期の天候不順の影響があることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、兵庫産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	(148%)	(142%)	(171%)	1,096t (84%)	長崎(66), 熊本(12), 兵庫(8)					
ほうれんそう	338.43	382	338.43	340	458	・532t (78%)	茨城(33), 群馬(22), 埼玉(17), 千葉(15)	→	茨城産は、日照が多く、気温も高めであることから生育は順調で、引き続き平年より多めの出荷の見込み。群馬産は、天候に恵まれ生育は順調で、作付面積が増加していることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。埼玉産は、一部の産地で黄変が散見されるものの、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産及び群馬産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づきつつあるものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	(113%)	(100%)	(135%)	231t (69%)	徳島(35), 福岡(32), 群馬(8)					
レタス (結球)	233.85	192	189.66	155	172	・2,515t (76%)	茨城(41), 静岡(21), 香川(7), 兵庫(6)	→	茨城産は、天候に恵まれ生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。静岡産は、生育は順調であるものの、12月の気温が高く前進出荷となった影響から、引き続き平年より少なめの見込み。香川産は、少雨の影響はあるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産、静岡産及び香川産において現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	(82%)	(82%)	(91%)	659t (73%)	兵庫(37), 茨城(22), 長崎(16), 徳島(12)					
果菜類	きゅうり	370.98	273	266.63	271	274	・3,187t (95%)	群馬(20), 宮崎(20), 千葉(17), 埼玉(15)	→	群馬産は、3月の曇天により草勢は弱めであるが、特に病害も散見されず、盛期に向けて順調な出荷が見込まれることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、気温が高めに推移し、着果も順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ適度な降雨もあり生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 群馬産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産及び千葉産の出荷が平年より多め若しくはやや多めと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を下回って推移する見込み。
		(74%)	(102%)	(103%)	965t (90%)	宮崎(40), 高知(23), 徳島(16), 群馬(8)				
	トマト (大玉)	349.23	331	356.77	325	333	・2,827t (90%)	熊本(30), 栃木(23), 愛知(11)	→	熊本産は、やや小玉傾向ではあるものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、小玉傾向ではあるものの、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、小玉傾向ではあるものの、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 熊本産、栃木産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。
		(95%)	(91%)	(93%)	1,022t (93%)	熊本(76), 福岡(8)				
	なす	389.03	429	347.77	418	403	・929t (84%)	高知(59), 福岡(20)	→	高知産は、天候に恵まれ気温も高めに推移し、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、天候に恵まれ生育は概ね順調で、現在平年並みの出荷となっている。今後は、着花も順調であったことから、平年よりやや多めの出荷の見込み。 高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、福岡産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		(110%)	(120%)	(116%)	406t (95%)	高知(38), 熊本(24), 福岡(19), 大阪(9)				
ピーマン	578.80	531	578.80	493	475	・827t (99%)	茨城(37), 宮崎(20), 高知(17)	→	茨城産は、天候に恵まれ生育は順調で、着果も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、天候に恵まれ気温も上昇し、生育は順調で前進傾向であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。高知産は、天候に恵まれ生育は順調で、根張りも回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 高知産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	(92%)	(85%)	(82%)	374t (106%)	宮崎(47), 高知(21), 鹿児島(9)					
根菜類	だいこん	79.03	87	79.03	88	81	・4,462t (73%)	神奈川(57), 千葉(35)	→	神奈川産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年よりやや多めの見込み。 神奈川産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		(110%)	(111%)	(102%)	1,617t (84%)	鹿児島(44), 長崎(32), 徳島(13)				
	111.16	157	111.16	169	167	・2,378t (81%)	千葉(57), 徳島(24)	→	千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で太りが良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。徳島産は、年明け以降、天候に恵まれ気温が高めに推移し生育は順調で前進傾向となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、徳島産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づきつつあるものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
(141%)	(131%)	(149%)	819t (103%)	鹿児島(53), 徳島(30), 愛知(10)						

注：1 平均価格は、過去6年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が廃断するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	2月の価格情報		3月		3月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の4月上旬までの見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格						
いも類	さといも	228.85	238	228.85	233	240	・197t (130%)	埼玉(42), 千葉(29)	→	埼玉産は、出荷終盤で貯蔵物からの計画的な出荷となっており、作柄が良かったことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、出荷終盤で駆け込み出荷もあり、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
		(104%)	(102%)	(105%)	・47t (184%)	愛媛(52), 宮崎(23)	千葉産及び埼玉産の出荷が平年よりやや多め若しくは多めと見込まれるものの、出荷終盤であることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。			
	ばれいしょ	96.99	213	96.99	210	214	・2,637t (78%)	北海道(67), 鹿児島(31)	→	北海道産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、8月末の台風による大雨の影響などもあることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、気温が高めに推移し天候も恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 鹿児島産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		96.99	209	96.99	198	214	・971t (80%)	北海道(53), 鹿児島(46)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	2月の価格情報		3月		3月中旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の4月上旬までの見通し			
	(参考)過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格	(参考)過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格						
洋菜類	ブロッコリー	356.04	261	315.79	245	310	・786t (137%)	愛知(44), 香川(22), 埼玉(7)	→	愛知産は、天候に恵まれ適度な降雨もあり、生育は順調で1月中旬以降の低温及び干ばつの影響で遅れていた分も出荷を迎えていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。香川産は、少雨の影響はあるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 香川産の出荷が平年並みと見込まれるものの、愛知産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在の平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		(73%)	(78%)	(98%)	・187t (110%)	徳島(25), 香川(17), 長崎(13)				
葉茎菜類	こまつな	368.61	314	287.58	237	287	・234t (87%)	茨城(40), 埼玉(34), 東京(13)	→	茨城産は、気温が高めに推移し天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。埼玉産は、天候に恵まれ適度な降雨もあり、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を下回って推移する見込み。
		(85%)	(82%)	(100%)	・120t (127%)	福岡(77), 茨城(7)				
根菜類	かぶ	143.42	148	142.27	145	157	・275t (75%)	千葉(88)	→	千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で、肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		(103%)	(102%)	(110%)	・20t (65%)	徳島(59), 石川(22)				
		140.01	172	158.05	150	149				

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成24～28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。

2 トピック - にらの需給動向について -

●代表的な東洋の野菜
「にら」はユリ科の多年草で、東アジアから中国西部が原産といわれており、欧米での栽培はみられず、代表的な東洋の野菜といえる。3000年以上前から食されていた野菜の一つで、散形花序で半球型の白い小さな美しい花を多数つけ、切花にもなる。
日本では700年ごろからすでに食されていたと考えられており、『古事記』に「加美良(かみら)」、『万葉集』に「久君美良(くくみら)」などと記述され、『正倉院文書』には「彌良(みら)」と表記がある。「みら」は「美味」という意味。「みら」がなまって「にら」となったという説もある。
江戸時代には薬用として利用されており、食用として利用されるようになったのは、明治時代に入ってからのもので、また、野菜として消費量が増えたのは戦後になってからのことである。

●にらの特長
現在では、栄養価の高い緑黄色野菜として健康志向を背景に消費が伸びている。代表的な栄養成分は硫化アリル、β-カロテン、ビタミンE、カリウム、食物繊維の5つ。独特の匂いは、にらに含まれる硫化アリルによるもので、ねぎ類に共通している成分である。硫化アリルはビタミンB1の吸収を高め、胃腸の粘膜を刺激し消化を助け、食物の臭みを和らげるなどの働きをする。
また、ほうれんそうを上回るβ-カロテンが含まれており、ビタミンEと相乗的に働き、癌の原因の一つであるフリーラジカルを体外に排泄する。免疫機能を高め癌の予防、老化の防止に効果的である。

●にらの生産の将来
平成27年のにらの作付面積は2150ヘクタール、出荷量は5万5500トンとなっており、20年と比べて、生産者の高齢化等もあって、作付面積が96%、出荷量が94%に減少している。都道府県別に出荷量を見ると、高知県(1万4900トン)が最も多く、次いで栃木県(9670トン)、茨城県(6310トン)となっており、これら3県で全国のおよそ6割を担っている。
一方、作付面積では、栃木県396ヘクタール、高知県260ヘクタール、茨城県216ヘクタールとなっている。単収は、栃木県は2.69トン/10aと、高知県の5.96トン/10a(全国平均の単収が、2.86トン/10a)に比べて低くなっている。
これは、高知県では、周年で収穫を行っているのに対して、栃木県や茨城県では、出荷物の高さ等をそろえるため、1回目に刈ったにらを出荷しない「捨て刈り」が行われている、また株に負担がかかってにらが細くならないようにしていることなどが原因である。
東京都中央卸売市場における月別産地別入荷量をみると、10月から翌5月は、栃木県と茨城県、高知県で8割を占めており、6月から9月の夏場は、高知県に代わって、冷涼な気候の山形県からの入荷が増えている。なお、大阪市場では、一年を通して高知産が6割、大分産が2割を占めている。
需要の伸びているにらは、軽量野菜で、栽培しやすいことから、水田転作作物として定年退職した兼業農家などが中心に導入しているなどの動きが見られ、将来的には栽培面積の増加が期待される野菜の一つではないかと思われる。

図1 にらの東京都中央卸売市場における月別卸売価格の推移

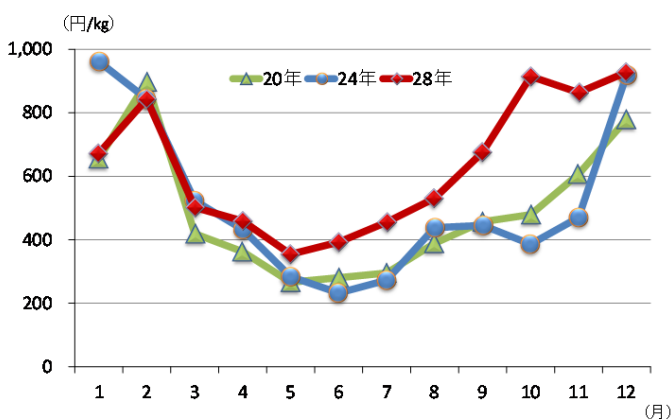


図2 にらの東京都中央卸売市場における平均卸売価格の推移

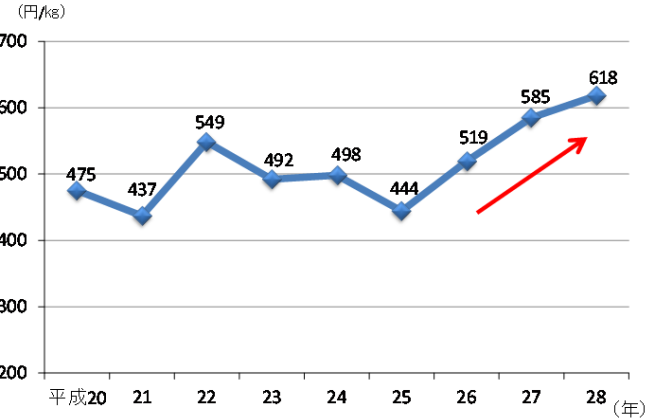


図3 にらの作付面積と出荷量の推移

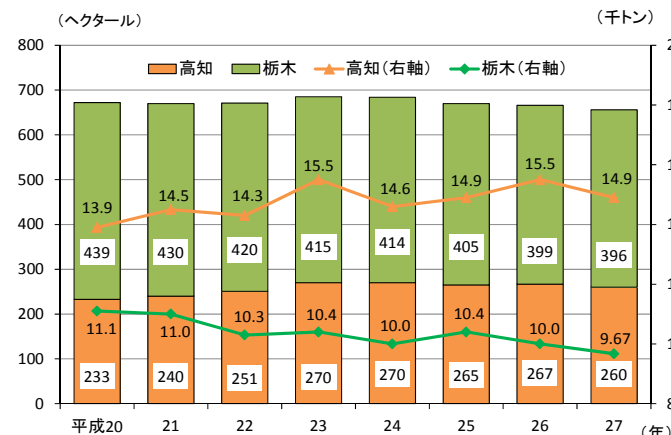
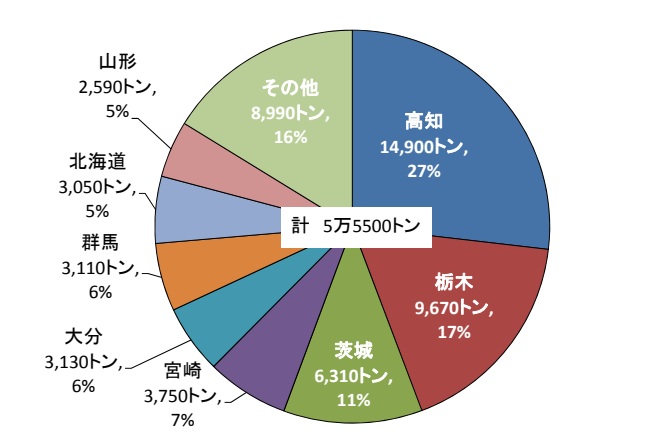


図4 にらの都道府県別出荷量(平成27年)



資料：図1、2 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：東京・大阪「市場月報」、図3、4 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。

※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。